

概要



白老町

- 急深な地形や離岸流の発生などが要因となり、港や海岸が地域資源として十分活用されていない。
- 2020(令和2)年7月に開館したウポポイ(民族共生象徴空間)の集客は、町内の経済活動と十分な連携が取れているとは言えず、ウポポイと合わせて訪れる目的となるコンテンツを要する。
- 他方で、本町では縄文時代から海の恩恵を受け、アイヌ民族も漁労をしてきた文化的背景がある。
- 地域おこし協力隊員を筆頭に、多岐にわたる関係者と「シン・白老港プロジェクト」を立ち上げ。
- 具体的には、①漁港ガイドの造成とガイド育成、②遊漁船の活用とオンライン予約プラットフォーム整備、③有料釣り場の整備、④港を活用したイベントの実施等で、地域の所得・魅力向上を図る。

海業の取組概要



④イベント等の実施

港湾内海浜エリアを中心にイベントやアクティビティなどを仕掛け、町内外の人が海と親しむ機会を生み出すと共に、水産物販売の定常化などを狙い、継続的に収入を得る機会を造成する。学生と連携した企画・運営も視野に入れる。



③有料釣り場の整備

「釣り文化振興モデル港」を参考に、有料釣り場の開設可能性及び港の活用資金を徴収できる体制を検討する。

②遊漁船の活用と予約プラットフォームの整備

町内で20隻ほどが登録している遊漁船を活用。手軽に遊漁船を予約できる体制を整備し、ライトユーザー層の利用促進を図る。

⑤陸上養殖事業の可能性検討

海洋環境に左右されない漁家経営の体制構築のため、将来的な陸上養殖事業の実証実験を行う。



①元漁師等による漁港ガイド

観光客とともに港内をガイドして回り、その場その時の漁港の様子を観察してもらうサービスを開発・提供。元漁師等の参画を促し、観光資源化を狙う。

効果

- ◆新規コンテンツの開発・運営過程で、多様な町民・学生が、港を中心に海業に関与するようになる。
- ◆海業推進によって、より多くの人々が港に行き交うことで、新たな水産業の儲け方や関わりしるを発見し、自発的・創発的に海業が展開するようになる。

協力体制

主体：(一社)SHIRAOI PROJECTS
協力：JFいぶり中央 白老支所・漁師有志
白老町 経済振興課 港湾室
農林水産課
(一社)白老観光協会
白老町環境町民会議(海岸協力団体)

スケジュール

- R6年度 各事業の実現可能性検討
実証実験、事例づくり
- R7年度 事業の本格稼働・広報や調整
助成金の獲得等
- R8年度～ 事業継続のための体制強化と
事業の自走化